



## 2020年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年10月31日  
上場取引所 東

上場会社名 第一工業製薬株式会社  
 コード番号 4461 URL <https://www.dks-web.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 坂本 隆司  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役財務本部長 (氏名) 浦山 勇 TEL 075-323-5955  
 四半期報告書提出予定日 2019年11月13日 配当支払開始予定日 2019年12月9日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：有

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年3月期第2四半期の連結業績（2019年4月1日～2019年9月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第2四半期	30,399	3.3	1,590	△22.9	1,545	△23.0	930	△24.9
2019年3月期第2四半期	29,438	4.9	2,063	△12.5	2,006	△6.8	1,239	△12.2

(注) 包括利益 2020年3月期第2四半期 742百万円 (△28.0%) 2019年3月期第2四半期 1,031百万円 (△46.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第2四半期	91.55	—
2019年3月期第2四半期	122.08	—

(注) 当社は、2018年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、「1株当たり四半期純利益」を算定しております。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期第2四半期	80,274	33,612	39.0	3,079.12
2019年3月期	75,906	33,591	41.3	3,082.83

(参考) 自己資本 2020年3月期第2四半期 31,313百万円 2019年3月期 31,324百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	0.00	—	70.00	70.00
2020年3月期	—	35.00	—	—	—
2020年3月期（予想）	—	—	—	35.00	70.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2020年3月期の連結業績予想（2019年4月1日～2020年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	64,000	7.4	5,100	17.5	5,000	19.8	3,000	16.2	295.25

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 ー社（社名）ー、除外 ー社（社名）ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年3月期2Q	10,684,321株	2019年3月期	10,684,321株
② 期末自己株式数	2020年3月期2Q	514,622株	2019年3月期	523,435株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年3月期2Q	10,165,293株	2019年3月期2Q	10,156,584株

(注) 当社は、2018年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、「期中平均株式数」を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間は、長引く米中貿易摩擦の影響を受け景況感は悪化しました。この状況は、日本の製造業における生産拠点の立地戦略や投資判断を左右する可能性があり、ビジネス環境の変化が予測されます。

国内では、2019年10月1日に5年ぶりに消費税が10%に引き上げられました。政府は、軽減税率やポイント還元制度導入などの対策を講じていますが、インターネット通販の普及や消費形態の変化に加え、人口減、人手不足という要因が稼ぐ力の低下につながっていることは否めず、昨今の小売業の拠点再編が加速している動きをみても、個人消費の下振れが懸念されます。

化学業界においては、サウジアラビアの石油施設攻撃に伴うエネルギー価格の上昇に警戒感を強めており、原油価格に留まらず各種原料の上昇や金融市場への影響も懸念されます。

このような市況のもと、独自性で評価される「ユニ・トップ」戦略を掲げた当社5カ年経営計画「REACT1000」も残すところあと半年となりました。今後ともアクチャル事業（既存事業）の利益構造改革、ネクスト事業（既存事業の周辺領域）のさらなる増強と発展、ドリーム事業（新規事業）の早期実績化を推し進めてまいります。

当第2四半期連結累計期間の業績といたしましては、『機能材料』セグメントのIT・電子用途の光硬化樹脂用材料が顕著に伸長しましたことから、売上高は303億99百万円（前年同期比3.3%増）となりました。一方損益面では、この供給に対応すべく暫定的増産体制を敷いたコストアップなどにより営業利益は15億90百万円（前年同期比22.9%減）、経常利益は15億45百万円（前年同期比23.0%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は9億30百万円（前年同期比24.9%減）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

## &lt;界面活性剤&gt;

界面活性剤の売上高は、総じて低迷しました。

国内では、IT・電子用途は伸長しましたが、ゴム・プラスチック用途はやや低調に推移し、機械・金属用途、塗料・色材用途はやや低迷しました。石鹼・洗剤用途は低迷しました。

海外では、繊維用途はやや低調に推移し、ゴム・プラスチック用途は低調に推移しました。

その結果、当セグメントの売上高は96億74百万円（前年同期比9.6%減）となりました。

営業利益は、石鹼・洗剤用途を中心に売上高が低迷したことにより、4億61百万円（前年同期比36.9%減）となりました。

## &lt;アメニティ材料&gt;

アメニティ材料の売上高は、総じて好調に推移しました。

国内では、ビニル系高分子材料はゴム・プラスチック用途が低調に推移し、シヨ糖脂肪酸エステルは食品用途がやや低調に推移しました。セルロース系高分子材料は医薬品用途が順調に推移しました。

海外では、シヨ糖脂肪酸エステルは香粧品用途がやや低調に推移し、食品用途がやや低迷しました。

その結果、当セグメントの売上高は40億94百万円（前年同期比2.2%増）となりました。

当セグメントは海外向けシヨ糖脂肪酸エステルの上昇がやや低迷したことや昨年ライフサイエンス分野で新しく2社を完全子会社としたことにより発生したのれんの償却が利益を圧迫し、1億17百万円の営業損失（前年同期は1億24百万円の利益）となりました。

## &lt;ウレタン材料&gt;

ウレタン材料の売上高は、総じてやや低迷しました。

土木用薬剤は好調に推移しましたが、フロン規制に関連する環境配慮型の合成潤滑油や、土木・建築用材料は低迷しました。

その結果、当セグメントの売上高は44億54百万円（前年同期比4.0%減）となりました。

当セグメントは環境配慮型の合成潤滑油や土木・建築用材料の売上高が低迷したことにより、87百万円の営業損失（前年同期は3百万円の損失）となりました。

### <機能材料>

機能材料の売上高は、総じて顕著に伸長しました。

国内では、難燃剤はゴム・プラスチック用途がやや低迷しましたが、光硬化樹脂用材料はIT・電子用途が顕著に伸長しました。

海外では、難燃剤はIT・電子用途が低迷しましたが、光硬化樹脂用材料はIT・電子用途が大幅に伸長しました。

その結果、当セグメントの売上高は100億16百万円（前年同期比25.9%増）となりました。

営業利益は、臭素系の難燃剤の原料価格の高騰や光硬化樹脂用材料の暫定的増産体制によるコストアップが利益を圧迫しましたが、光硬化樹脂用材料の顕著な売上高の伸長により12億8百万円（前年同期比1.6%増）となりました。

### <電子デバイス材料>

電子デバイス材料の売上高は、総じて好調に推移しました。

太陽電池用途の導電性ペーストはやや低調に推移しましたが、電子デバイス用途のデバイス材料が好調に推移しました。

その結果、当セグメントの売上高は21億61百万円（前年同期比1.4%増）となりました。

営業利益は、売上高が好調に推移したことに加え営業経費の削減が功を奏し1億25百万円（前年同期は23百万円の利益）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### (資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は425億14百万円となり、前連結会計年度末に比べ31億53百万円増加しました。これは主に受取手形及び売掛金が10億36百万円、商品及び製品などのたな卸資産の合計が4億円減少しましたが、現金及び預金が38億34百万円増加したことなどによるものです。固定資産は377億59百万円となり、前連結会計年度末に比べ12億14百万円増加しました。これは主に光硬化樹脂用材料製造設備及びウレタンシステム製造設備の建設等により、有形固定資産の合計が16億66百万円増加したことなどによるものです。

この結果、総資産は802億74百万円となり、前連結会計年度末に比べ43億67百万円増加しました。

### (負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は254億46百万円となり、前連結会計年度末に比べ12億25百万円増加しました。これは主に支払手形及び買掛金が10億88百万円減少しましたが、短期借入金が29億30百万円増加したことなどによるものです。固定負債は212億15百万円となり、前連結会計年度末に比べ31億20百万円増加しました。これは主に長期借入金が29億45百万円増加したことなどによるものです。

この結果、負債合計は466億61百万円となり、前連結会計年度末に比べ43億46百万円増加しました。

### (純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は336億12百万円となり、前連結会計年度末に比べ21百万円増加しました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益9億30百万円及び剰余金の配当7億11百万円などにより、利益剰余金が2億19百万円増加しましたが、株価の下落によりその他有価証券評価差額金が1億22百万円減少したことなどによるものです。

この結果、自己資本比率は39.0%（前連結会計年度末は41.3%）となりました。

### (キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末と比べて38億31百万円増加し、111億10百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

### <営業活動によるキャッシュ・フロー>

営業活動の結果、得られた資金は19億46百万円（前年同期は13億71百万円）となりました。これは、仕入債務の減少10億75百万円（前年同期は1億円の増加）などにより資金が減少したことに対し、税金等調整前四半期純利益15億3百万円（前年同期は18億79百万円）、減価償却費13億15百万円（前年同期は12億57百万円）に加え売上債権の減少9億94百万円（前年同期は12億14百万円の増加）などにより資金が増加したことによるものです。

<投資活動によるキャッシュ・フロー>

投資活動の結果、使用した資金は31億13百万円（前年同期は30億21百万円）となりました。これは、前年同期は、関係会社株式の取得による支出が14億55百万円（当期はありません）ありましたが、当期は、有形固定資産の取得28億13百万円（前年同期は8億45百万円）などにより資金が減少したことによるものです。

<財務活動によるキャッシュ・フロー>

財務活動の結果、得られた資金は50億58百万円（前年同期は20億6百万円の支出）となりました。これは、長期借入金の返済27億27百万円（前年同期は25億38百万円）、配当金の支払い7億11百万円（前年同期は7億7百万円）などにより資金が減少したことに対し、短期借入金の純増加額28億70百万円（前年同期は14億31百万円）、長期借入による収入58億円（前年同期はありません）により資金が増加したことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2019年9月20日付で公表いたしました通期の連結業績予想からの変更はありません。

なお、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,485	11,320
受取手形及び売掛金	17,872	16,835
商品及び製品	9,456	8,780
仕掛品	29	29
原材料及び貯蔵品	2,451	2,728
前払費用	276	392
その他	1,803	2,443
貸倒引当金	△15	△15
流動資産合計	39,361	42,514
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	10,955	10,695
機械装置及び運搬具(純額)	5,353	5,132
工具、器具及び備品(純額)	559	647
土地	9,182	9,096
リース資産(純額)	568	772
建設仮勘定	3,104	5,046
有形固定資産合計	29,724	31,390
無形固定資産		
のれん	871	773
その他	477	495
無形固定資産合計	1,348	1,268
投資その他の資産		
投資有価証券	4,037	3,914
長期貸付金	268	17
長期前払費用	232	237
繰延税金資産	91	88
退職給付に係る資産	569	571
その他	277	276
貸倒引当金	△6	△6
投資その他の資産合計	5,472	5,100
固定資産合計	36,545	37,759
資産合計	75,906	80,274

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	12,926	11,838
短期借入金	6,604	9,534
リース債務	227	229
未払費用	251	261
未払法人税等	704	427
未払事業所税	37	18
賞与引当金	678	650
その他	2,790	2,484
流動負債合計	24,220	25,446
固定負債		
長期借入金	16,862	19,808
リース債務	497	666
繰延税金負債	298	301
退職給付に係る負債	98	103
資産除去債務	73	73
その他	264	262
固定負債合計	18,095	21,215
負債合計	42,315	46,661
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	8,895	8,895
資本剰余金	7,237	7,250
利益剰余金	15,934	16,154
自己株式	△1,068	△1,050
株主資本合計	30,998	31,250
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	28	△94
為替換算調整勘定	26	△93
退職給付に係る調整累計額	271	251
その他の包括利益累計額合計	325	63
非支配株主持分	2,266	2,298
純資産合計	33,591	33,612
負債純資産合計	75,906	80,274

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
売上高	29,438	30,399
売上原価	21,885	23,049
売上総利益	7,553	7,350
販売費及び一般管理費	5,489	5,759
営業利益	2,063	1,590
営業外収益		
受取利息	3	3
受取配当金	32	43
持分法による投資利益	29	30
その他	44	38
営業外収益合計	110	115
営業外費用		
支払利息	101	94
その他	66	66
営業外費用合計	168	161
経常利益	2,006	1,545
特別利益		
関係会社株式売却益	141	—
特別利益合計	141	—
特別損失		
固定資産処分損	26	41
減損損失	240	—
特別損失合計	267	41
税金等調整前四半期純利益	1,879	1,503
法人税、住民税及び事業税	452	413
法人税等調整額	72	20
法人税等合計	525	433
四半期純利益	1,354	1,070
非支配株主に帰属する四半期純利益	114	139
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,239	930

(四半期連結包括利益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益	1,354	1,070
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△47	△122
為替換算調整勘定	△253	△173
退職給付に係る調整額	△5	△19
持分法適用会社に対する持分相当額	△16	△11
その他の包括利益合計	△323	△327
四半期包括利益	1,031	742
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	993	668
非支配株主に係る四半期包括利益	38	74

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	1,879	1,503
減価償却費	1,257	1,315
のれん償却額	—	98
減損損失	240	—
貸倒引当金の増減額(△は減少)	0	—
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△98	△18
受取利息及び受取配当金	△35	△46
支払利息	101	94
持分法による投資損益(△は益)	△29	△30
固定資産処分損益(△は益)	26	41
関係会社株式売却損益(△は益)	△141	—
売上債権の増減額(△は増加)	△1,214	994
たな卸資産の増減額(△は増加)	△437	383
仕入債務の増減額(△は減少)	100	△1,075
その他	427	△654
小計	2,078	2,604
利息及び配当金の受取額	82	60
利息の支払額	△100	△94
法人税等の支払額	△689	△623
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,371	1,946
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	—	△213
定期預金の払戻による収入	—	207
有形固定資産の取得による支出	△845	△2,813
投資有価証券の取得による支出	△790	△1
関係会社株式の取得による支出	△1,455	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	130	—
貸付けによる支出	—	△150
貸付金の回収による収入	0	0
その他	△60	△142
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,021	△3,113
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	1,431	2,870
長期借入れによる収入	—	5,800
長期借入金の返済による支出	△2,538	△2,727
セール・アンド・リースバックによる収入	—	32
リース債務の返済による支出	△149	△163
自己株式の取得による支出	—	△0
配当金の支払額	△707	△711
非支配株主への配当金の支払額	△41	△42
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,006	5,058
現金及び現金同等物に係る換算差額	△94	△60
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△3,750	3,831
現金及び現金同等物の期首残高	11,402	7,278
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,651	11,110

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	界面活性剤	アメニティ材料	ウレタン材料	機能材料	電子デバイス材料	合計
売上高						
外部顧客への売上高	10,699	4,007	4,642	7,958	2,131	29,438
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	10,699	4,007	4,642	7,958	2,131	29,438
セグメント利益又は損失(△) (営業利益又は営業損失)	730	124	△3	1,189	23	2,063

(注) 報告セグメント利益の合計金額と四半期連結損益計算書の営業利益は一致しております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「電子デバイス材料」セグメントにおいて、当社がエルクセル(株)を吸収合併したことに伴い、リチウムイオン電池製品製造設備は、従来の製造設備用途から、電池用途向け部素材開発の研究に特化させることとなったため、当社の電子デバイス材料の資産グループに属することとなりました。電子デバイス材料の資産グループは、営業活動から生ずる損益が継続してマイナスとなっており、将来のキャッシュ・フローも見込まれないことから、回収可能価額を零と評価し、帳簿価額240百万円全額を減損損失として特別損失に計上しております。

## II 当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

## 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	界面活性剤	アメニティ材料	ウレタン材料	機能材料	電子デバイス材料	合計
売上高						
外部顧客への売上高	9,674	4,094	4,454	10,016	2,161	30,399
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	9,674	4,094	4,454	10,016	2,161	30,399
セグメント利益又は損失(△) (営業利益又は営業損失)	461	△117	△87	1,208	125	1,590

(注) 報告セグメント利益の合計金額と四半期連結損益計算書の営業利益は一致しております。